

昭和初期に刊行された東アジア経済史研究書を収録。

一五年戦争期 東アジア経済史資料

全7巻

広瀬 順皓 編・解説

クレス出版



大東亜共同宣言採択の瞬間

広瀬順皓

戦前期の日本においては、特に第一次世界大戦以降、東南アジアの一部を含めた東アジアに関する多くの調査研究がなされてきた。朝鮮総督府による生活状態調査や日本統治下の台湾や朝鮮の様々な分野の研究は現在でもその価値を失っていない。ところが眼を当該時期の史的研究に目を転じると事情は異なる。そうした調査報告や文献の地域研究の成果を基礎とした史的研究は、基本的分野たとえば経済史研究においてもまったく十分ではない。

そこで今回は『一五年戦争期 東アジア経済史資料』と題して、主として昭和初年から一〇年代にかけて刊行された経済史研究を収集してみた。東アジア各国・各地域の経済史は、植民地であった韓国や台湾とその他の地域では全く異なる。例えば朝鮮を例に挙げると『近代朝鮮経済史』は「李朝末期における商業及び金融」と副題されるように植民地統治下の経済史には全く触れていない。これに反して独立国である中国においては『近代支那経済史』の表題のもとに日露戦争以後の時代までを包含しているなど、その形態は多種多様であるといつてよいだろう。

しかるにこの時期はいわゆる一五年戦争の時代であり、企画院を代表とする国策統合機関が模索され完成した時期でもある。そのためにも、先に挙げた東アジア各地域や国家の経済史を読み直すために、「大東亜共栄圏」の基本的枠組みを知ることが必須であると思われる。そこで本シリーズでは最初に企画院による『大東亜建設の基本綱領』と、その経済部門の解説書ともいいうべき木村増太郎の『東亜経済政策』をかけることにした。

以下『近代支那経済史』、『台湾経済史研究』、『近代朝鮮経済史』と続くが、満州地域においては経済史が編纂執筆されていないことから『奉天経済三十年史』を収録した。また大東亜共栄圏の南方地域におけるものとして『^{リ観たる}蘭領印度』をとりあげた。

近年こうした東アジア研究のための史料は次々と発掘され公開されている。特に旧高等商業学校が積極的に植民地史料を公開していることはよく知られている。本シリーズがそうした史料公開の動きの中で刊行されることは、喜ばしく思う。

近代支那経済史

第一章 支那経済の發展過程概観

第一節 支那経済の發展過程

支那の歴史の長さこと、資源の豊かなること、これは遠く許多國家の上にてゐる。支那を「神秘の國土」と見做してゐる人もあるが、その實、仔細に研究してみれば一點の「神秘」さへない。支那の領土は全世界面積の一部であり、従つてこの領土上に生起せるものはすべてその他の諸國に生起せるものと大體同じである。腹がへれば何か食べたいし、年をとれば地下に永眠するであらう。これは白色人種と有色人種とを問はず人間に共通せる性質であつて、毫も例外はない。一部の「國情」論者は、この點が明らかでないため、常に支那を一個の「特別區」と見做し、支那問題と世界問題との内に一條の「萬里の長城」を築いてゐるのである。私の見

第一章 支那經濟の發展過程概観

一

第一節 商品流通過程の體制

第一序 論

李朝封建社會は、極めて長い間に互る生産力のアジア的停滞性のため、自然經濟を主とし、李朝末期に至るも、商品經濟、貨幣經濟は未發達のまゝであり、自給自足經濟が支配的であつた。それが、韓國末期に至つては、次第に外來の資本の力によつて、李朝封建機構が動搖をきたすにつれて、商品經濟―貨幣經濟化の氣運が現はれてきた。生産部面すでにこの状態であるから、商品流通部面の貧弱さは、なほ商品貨幣をもつて交換を行ふ程度であつた。かくて、商業そのもの規模も極めて貧弱であり、生産物の商品化も、自給自足經濟において小生産者層の剩餘分の僅少がうけもつ位であつた。

李朝末期の朝鮮各地を調査した諸先進國の外國人は、口を揃へてこの商業の不振を報告してゐるが、われ／＼は、暫くかれらに聞かう。

Mrs. Bishop 氏、韓國に於ては Money is scarcely current. Mrs. Hulbert

第1巻

大東亜建設の基本綱領

企画院研究會著／社團法人 同盟通信社／昭和18年
【内容】大東亜建設の基本方針、大東亜建設に処する文教政策、大東亜建設にともなふ人口政策、大東亜経済建設の基本方針、大東亜の交通基本政策、大東亜の農・林・水・畜産業建設方針、鉱業、工業及び電力方針、金融、財政並に交易基本方針

第2巻

東亜経済政策

木村増太郎著／千倉書房／昭和15年
【内容】東亜資源政策の基調、東亜産業建設の諸問題、東亜通過政策の基礎工作、東亜貿易論、滿洲開拓民と支那の人口問題、戦時食糧政策と支那の農業、在支列國利権対策、華僑対策

第3巻

近代支那経済史

錢亦石著、及川朝雄訳／慶應書房／昭和14年
【内容】支那経済の發展過程概観、列強と支那経済への影響、支那における近代企業の發展過程、中国国民経済概況、支那における列強の経済力

第4巻

奉天経済三十年史

佐々木孝三郎編／奉天商工会／康德7年
【内容】奉天経済界の一般的推移（日露戦役前後より支那革命迄、民国成立より欧州大戦終息迄、財界の好景氣と其の影響、奉天経済界の不振、滿洲事变以後の状態）、奉天経済各界の發展（交通運輸・通信、通貨及金融、商業及貿易、工業及鉱業、農業及牧畜）

第5巻

台湾経済史研究

東嘉生著／東都書籍／昭和19年
【内容】台湾経済史概説（台湾経済史の方法論、民族共同経済時代、掠奪経済時代、藩鎮経済時代、近世的封建時代、資本主義時代）、台湾経済史論攷（清朝廷下台湾の土地所有形態、清朝廷下台湾の地代関係、清朝廷下台湾の貿易と外國商業資本）

第6巻

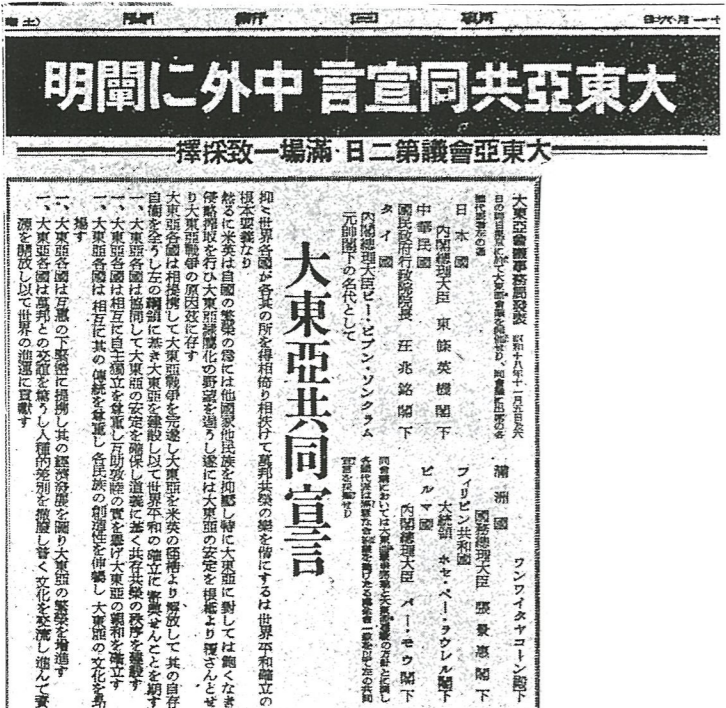
近代朝鮮経済史

崔虎鎮著／慶應書房／昭和17年
【内容】李朝末期における商業（商業の歴史性、商業の組織、商業資本および商業利潤）、李朝末期における金融（高利貸附資本の諸前提および一般的特徴、李朝末期における高利貸附資本の特徴と機能、各層の高利貸附業者、『典富業』・金貨業の機構、高利貸附資本とその利潤、高利貸附資本の農民層に及ぼせる影響、高利貸附資本のもたらした結果）

第7巻

蘭領印度

経済上、蘭領印度を各其の所得相持り相扶け共榮共進の途を指すは世界平和確立の要諦なり
増井貞吉著／財政経済学会／大正15年
【内容】植民政策の推移、蘭領印度の統治組織、財政並に金融事情と貿易の梗概、農業総論、代表的の欧人農業、重要な鉱業、投資上より観たる蘭領印度、蘭領印度に於ける各国の経済的勢力、経済上より観たる蘭領印度の将来



一五年
戦争期 **東アジア経済史資料 全7巻**

広瀬 順皓 編・解説

第1巻	大東亜建設の基本綱領	定価 9,000円(税別)	ISBN978-4-87733-766-7
第2巻	東亜経済政策	定価10,000円(税別)	ISBN978-4-87733-767-4
第3巻	近代支那経済史	定価 9,000円(税別)	ISBN978-4-87733-768-1
第4巻	奉天経済三十年史	定価18,000円(税別)	ISBN978-4-87733-769-8
第5巻	台湾経済史研究	定価10,000円(税別)	ISBN978-4-87733-770-4
第6巻	近代朝鮮経済史	定価 9,000円(税別)	ISBN978-4-87733-771-1
第7巻	経済上より観たる 蘭領印度	定価15,000円(税別)	ISBN978-4-87733-772-8

A5判/上製クロス装 平成25年7月末日刊行

揃定価 80,000円(税別) ISBN978-4-87733-773-5(セット) C3333

クレス出版好評既刊書

日本植民地下の朝鮮研究 全9巻

広瀬 順皓 編

第1巻	総督政治 全	定価 18,000円(税別)	ISBN978-4-87733-563-2
第2巻	朝鮮統治論 初版	定価 24,000円(税別)	ISBN978-4-87733-564-9
第3巻	最近の韓国、朝鮮の人口研究、朝鮮統治秘話	定価 26,000円(税別)	ISBN978-4-87733-565-6
第4巻	朝鮮に於ける内地人、近代朝鮮史研究	定価 24,000円(税別)	ISBN978-4-87733-566-3
第一回全4巻 揃定価 92,000円(税別) ISBN978-4-87733-567-0(セット)			
第5巻	近代朝鮮史 上巻	定価 18,000円(税別)	ISBN978-4-87733-590-8
第6巻	近代朝鮮史 下巻	定価 16,000円(税別)	ISBN978-4-87733-591-5
第7巻	朝鮮文化史論	定価 18,000円(税別)	ISBN978-4-87733-592-2
第8巻	朝鮮史話、朝鮮開教五十年誌、天道教と侍天教	定価 24,000円(税別)	ISBN978-4-87733-593-9
第9巻	朝鮮は起ち上る、朝鮮開拓誌	定価 18,000円(税別)	ISBN978-4-87733-594-6
第二回全5巻 揃定価 94,000円(税別) ISBN978-4-87733-595-3(セット)			

台湾史研究叢書 全十巻

檜山 幸夫 編・解説

第一巻	台湾史と樺山大将	定価26,000円(税別)	ISBN978-4-87733-623-3
第二巻	西郷都督と樺山総督、明治七年 生蕃討伐回顧録	定価22,000円(税別)	ISBN978-4-87733-624-0
第三巻	台湾殖民発達史	定価12,000円(税別)	ISBN978-4-87733-625-7
第四巻	台湾文化史説	定価 9,000円(税別)	ISBN978-4-87733-626-4
第五巻	台北市政二十年史	定価26,000円(税別)	ISBN978-4-87733-627-1
第一回全五巻 揃定価95,000円(税別) ISBN978-4-87733-628-8(セット)			
第六巻	台湾島史、台湾土俗誌	定価13,000円(税別)	ISBN978-4-87733-677-6
第七巻	台湾志	定価17,000円(税別)	ISBN978-4-87733-678-3
第八巻	台湾匪誌、事変と台湾	定価19,000円(税別)	ISBN978-4-87733-679-0
第九巻	台湾の蕃族	定価26,000円(税別)	ISBN978-4-87733-680-6
第十巻	蕃郷風物記、台湾地名研究	定価20,000円(税別)	ISBN978-4-87733-681-3
第二回全五巻 揃定価 95,000円(税別) ISBN978-4-87733-682-0(セット)			